vinetur

EUの域外向けワイン輸出額、過去1年間で6.8％減

EU域外へのワイン輸出量は3.3％減の2,750万ヘクトリットル。瓶詰めワインとスパークリングワインの収益が低下

2026年11月16日（月）



11月13日にブリュッセルで開かれたCopa-Cogecaのワイン関連会合で示されたデータによると、欧州連合（EU）域外へのワイン輸出は、販売量の減少幅が比較的小さかったにもかかわらず、収入が減少した。過去1年間、業界の収益性が低下したことが浮き彫りになった。

2025年9月から2026年8月までのEUの第三国向けワイン輸出額は154億ユーロとなり、直前の12カ月間から6.8％減少した。一方、輸出量は3.3％減の2,750万ヘクトリットルだった。これらの数値はEU加盟国間の取引を除き、輸出額、輸出量、平均輸出額を対象としている。

輸出収入の減少幅が実数量の減少幅を上回ったことは、販売単位当たりの収益が低下したことを示

唆する。公表された合計値を基にすると、平均輸出額は1リットル当たり約5.60ユーロで、前期比約3.62％の低下となる。ただし、この平均値だけでは市場全体で価格が直接引き下げられたとは言えない。商品構成、容器形態、仕向け先市場の変化も反映されるためだ。

このデータは、欧州のワイン生産者が供給と需要の両面で圧力に直面するなかで議論された。Copa-CogecaとLegacoop Agroalimentareは、2026年の収穫が再び厳しい年になる見通しだと述べた。複数の国で異常気象がブドウ畑に影響を及ぼし、多くの伝統的市場でワイン消費の減少も続いている。

輸出の鈍化は、EU最大級の仕向け先の一部で特に顕著だった。2026年8月までの12カ月間に、米国向け輸出額は15.3％減少した。カナダ向けは11％、スイス向けは9.2％、英国向けは3.9％の減少となった。一方、ロシア向けは17.5％増、香港向けは10.9％増と、対照的な動きを示した市場もあった。

商品形態別では、増加したのはバルクワインとバッグ・イン・ボックスのみだった。バルクワインの輸出は5％増、バッグ・イン・ボックスは3.4％増となった。瓶詰めワインの輸出は7.5％減、スパークリングワインは6.2％減だった。通常、輸出収入を支える高付加価値分野の弱さが示された。

輸出データとあわせて、2026/27年のEUワイン・果汁生産年度に関する初期推計も示された。EUの生産量は前回の収穫から4％減少し、過去5年平均を約8％下回る見込みだ。イタリア、スペイン、フランスは引き続きEUの主要生産国で、3カ国でEU総生産量の約82％を占める。一方、いずれの国も気象に起因する混乱と需要の軟化に直面している。

両団体によると、干ばつ、熱波、春の霜害、雹により、多くの産地で収量が減少した。こうした生産への圧力は、消費の減少、価格の低迷、高水準の在庫と同時に生じており、取引を通じて生産者が利益率を回復することを一段と難しくしている。

会合で示された数値によると、世界のワイン消費量は2億2,100万ヘクトリットルと推計され、30年以上ぶりの低水準となった。世界のワイン消費に占めるEUの割合も縮小し、2000年の約60％から現在は48％に低下している。赤ワイン、ロゼワイン、ベーシックなテーブルワインが、特に大きな圧力を受けるカテゴリーとして挙げられた。

イタリアは2026年に4,110万ヘクトリットルを生産し、世界最大の生産国の座を維持する見通しだ。ただし、これは2025年比で7.6％減、過去5年平均を約10％下回る水準となる。南部の産地は干ばつと高温の影響を最も強く受けており、シチリア州とアブルッツォ州では特に大幅な減少が報告されている。

スペインの生産量は3,450万ヘクトリットルと予測され、3％増となる見込みだが、低価格がブドウ栽培の収益を圧迫している。フランスは3,380万ヘクトリットルの生産が見込まれ、2％減、過去5年平均を約15％下回る。フランスでは、生産者が市場環境の変化に対応するため、大規模なブドウ樹の引き抜き計画も進められている。

Legacoop Agroalimentareによると、会長のCristian Maretti氏やワイン部門責任者のValentina Sourin氏を含む同団体の代表者がブリュッセルの会合に参加した。欧州機関との協議では、共通農業政策の今後、部門別予算、共同拠出の規則、助成対象者、自然にアルコール度数を抑えたワインの開発も議題となった。

両団体は、各国の統計当局が公式データを公表するのに伴い、生産量の推計がなお変わる可能性があると述べた。それでも現状からは、生産量が減少し、収穫の変動が大きくなる一方、主要輸出市場からの収入も落ち込むワイン業界の姿がうかがえる。伝統的な仕向け先が低迷するなか、新たな市場での伸びは他地域での減少を補うには至っていない。

ブリュッセルの会合で、Copa-Cogecaのワーキンググループ「ワイン」の代表を務めるLuca Rigotti氏は、業界にはイノベーション、持続可能性、品質への投資に加え、商品ラインアップの拡充、新たな輸出市場の開拓、若年層とワインとのつながりを取り戻す取り組みの強化が必要だと述べた。両団体によると、ブリュッセルでの政策論議では、生産者が気候や貿易環境の変化に適応するための十分な市場管理手段と支援を得られるかどうかも焦点となる。